

## チェルシーフラワーショーに参加して

教育創造工学科 4年 百武吉徳

今回私は、英国の世界的に有名な花の祭典である「チェルシーフラワーショー」に「チャレンジスタッフ」として参加させていただきました。具体的には、世界的に著名なガーデニストであり大学の大先輩でもある客員教授の石原先生の出展に際し、庭造りのアシスタントをすることです。

チャレンジスタッフは全部で21人おり、自分と同年代の学生もいました。人生の転機として参加した人、庭造りを通して石原先生からその考え方や仕事に対する姿勢などを学び、今後の仕事の役に立てようと考えている人がほとんどでした。その中で、私は改めてこの体験の貴重さを感じ、大学の代表として参加しているという強い使命感を感じていました。

作業内容の序盤は苔壁を作ったり重量物の運搬などを行いました。後半は本格的に庭の仕上げの手伝いをしました。花を飾り、苔を貼り、ペンキを塗る・・・ようやく庭らしい作業に携われるということで、みんなが生き生きと作業を進め、チームの一体感を感じる事が出来ました。なお、「苔玉」作りの際は、石原先生に「お前は苔を貼るのが上手やな」と褒められ、すごく嬉しかったです。

メインスタッフとして参加されている職人の方々は、本当に尊敬できる方々でした。「職人」と呼ばれる人は気性が荒く、何だか怖いというイメージでしたが、みんなに優しく、謙虚な姿勢で接していただき、私も見習わなければならない点が多く、出会えて良かったと、心から思いました。

今回、世界的に活躍をする石原先生と一緒に仕事をさせていただき、心に大きく残った言葉があります。それは「何事もやるなら世界一を目指せ」という言葉です。先生は「日本をチェルシーに負けないほどの、花の溢れる国にしたい。そのために死ぬまで、私は働き続ける」とおっしゃいました。夢のスケールの大きさ、挑戦する姿勢があるからこそ、世界的に活躍出来るのだと感じました。

私は今「就職」という人生の新たなスタートラインに立っています。どんな仕事に就いたとしても、この言葉を胸に刻み、仕事に対して真摯に向き合い一生懸命頑張ろうと思います。そしていつか、私も石原先生のような、夢を実現できる大人になりたいと思います。

最後に、石原先生を始め、この企画参加にあたりご支援ご協力をいただいた関係者の皆様に対し、感謝申し上げます。